

## メッセージアウトライン

### ガラテヤ 6：1~5「互いの重荷を負い合う」

「兄弟たちよ。もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい」(1)

ここで「あやまち」(παράπτωμα)と言われていることばは、知らずに横道にそれた行為を意味する。これは故意に犯す罪の行為とは違うものである。誰でも皆そのような弱さを持っている。しかしそれをそのままにしておくのではなく、「御霊の人であるあなたがた」はその御霊の結ぶ実でもある柔和な心でその人を正してあげるようにとすすめられる。また自分自身も誘惑に陥らないようにと戒められる。特定の人だけがあやまちに陥る可能性を持っているわけではないからである。御霊によって歩むことはいかに大切なことだろう。

「互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい」(2)

これは失敗やあやまちゆえの悲しみや苦しみを負い合い、そのようにして助け合い励まし合うことである。そのようにしていく時にクリスチャンはイエス・キリストの律法を全うすることになる。 マタイ 22:37~40

3~4 節ではうぬぼれたり傲慢にならないようにとの注意があげられる。自分は立派だ。あの人よりまさっている。私なら決してあんなことはしないなどと思っている人は実は自分を欺いているのであり、立派でもない自分をそう思いこんでいるだけだというのである。しかし、人は御霊に導かれ謙遜になればなるほど、神の前に誇れるものなど何もないということに気づく。

ただひとつ誇れるものがあるとするれば、それはイエス・キリストの十字架以外にはない。自分の罪過と罪の中に死んでおり、肉と心の望むままを行ない、永遠の滅びに行くべき者を、いのちをかけて贖ってくださったイエス・キリストの十字架以外に私たちは誇るものがあってはならない。 ガラテヤ 6:14

「人にはおのおの、負うべき自分自身の重荷があるのです」(5)

ここで言われている「重荷」(φορτίον)は2節で言われた「重荷」(βάρος)とは意味が違う。2節の「重荷」は過ちの結果の重圧を意味している。5節のほうは責任とか義務という意味がある。それゆえ5節で言っていることは、人はそれぞれ自分の行動に対して責任を負わなければならない、そしてその責任を果たしつつ信仰生活を送らなければならないということである。

私たちは、あやまちに陥った人があるならば、柔和な心でその人を正してあげ、自分自身にも気をつけ、また互いの重荷を負い合い、誇り高ぶることなく、自分自身の果たすべき義務や奉仕を忠実に果たしていかなければならない。これが神が私たちに望んでいること。そのためにも私たちは信仰生活の導き手、助け手である御霊によって歩み、御霊の実を結ぶ生き方をしよう。